

第二回震災支援活動報告

NPO法人ガーデンを考える会では、東日本大震災地域の小学校に対する支援活動として、6月の岩手県釜石市の小学校9校に引き続き、2回目の直接支援活動を10月の4～5日に会員有志12名で行いました。

今回の支援対象先は、宮城県気仙沼市の小学校13校で、その内の8校は支援物資のお届けで、5校は授業活動の一環として会員と共に花苗の植え込みを行いました。

支援内容としては、ビオラを主体とした花苗を約1,500ポット、チューリップの球根を約1,500球、それを植え込むコンテナ・培用土・肥料・植え込み用のスコップや手袋等を会員メンバー及び園芸業界被災地支援の会（中島吉之代表）から募り、寒さが厳しい東北の冬から早春まで、コンテナで育った花を楽しんで頂くというものです。



10月4日の午後に、東北新幹線一ノ関駅に集合して打ち合わせを行い、翌日は2班に分かれてレンタカー2台と会員企業の社用車2台に分乗し、小原木小学校・鹿折小学校・九条小学校・中井小学校・唐桑小学校を訪れ、1年生から6年生まで多くの児童と共に、会員が植え込みの指導をしながら、夫々1時間程度をかけ行いました。また、その内の小原木小学校では、隣接する仮設住宅30戸の住民との触れ合いを図るとのことから、児童と仮設の皆さんが大勢で和気あいあいと植え込みを楽しんでいただきました。



気仙沼市では港の周辺にて甚大な被害を受け、半年以上たった今でも、多くの児童に影響を与えているようです。植え込み中の1年生の、とても上手な児童に会員が声を掛けたところ、「家ではいつも花を植えてたから」との返事があり、それに続いて「でも流されちゃった」との言葉には、それ以上何も言えなかった・・・とのことで、改めて津波のもたらした被害の影響の深さを知らされた思いでした。



被災地域はこれから冬に向かうため、ガーデンを考える会の被災地小学校に対する園芸支援活動は一旦休止し、翌年の春から活動を再開する予定です。

半年以上も経って、ともすれば人々の中には被災地への関心が薄くなっていく心配が多少あるようにも感じられます。しかしながら、現地の状況はまだまだとても復興などと言えたものでは無く、長期的な視野に立った支援が必要となっています。また、ただ単に物資や資金の支援のみではなく、ぜひ現地にての直接支援活動に参加し、花と緑で人々の心を支援する活動に参加して頂きたいと思っています。

支援活動協賛会員等（敬称略）

アップルウェアー、キムラグリーン、さんこうえん、シモジマ、東和コーポレーション、豊明花き、中島商事、ハイポネックスジャパン、ハクサンインターナショナル、福島植物園、フラワーオークションジャパン、北越農事、緑のマーケット、緑化技研、園芸業界被災地支援の会

平成23年10月17日
NPO法人ガーデンを考える会
会長 水野 隆